

# ニッポン ドクター和の 臨終図巻



「死は自分の意思ではどうにもならない。今はもう、死は怖くはありません」

妻で女優の朝丘雪路さんを4月になくした俳優の津川雅彦さんは、その1カ月後の雑誌のインタビューでこんなふうに語っていました。

同じ頃に行われた記者会見で、車椅子で会場に現れた津川さんは、鼻に酸素注入器、指には心拍数計をつけていました。体調は悪そうなものゝ毅然（きぜん）とした表情で、「娘を産んでくれたこと、（借金返済のために）家を売ってくれたこと、僕より先に死んでくれたこと……すべて感謝しています」と話されています。

## 67 津川雅彦



長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

たのが印象的でした。アルツハイマー型認知症だった妻を見送り、心の整理もついたらとこだったのでしょうか。妻の死から99日後の8月4日に津川さんは旅立ちました。享年78。死因は心不全との発表でした。心不全ということもあって、「突然死だった」と伝えている報道もありましたが、私は突然死だとは思いません。

# 夫婦とも見事な平穏死

同じ心不全でも、たとえば今年の2月に急性心不全で亡くなった大杉連さん（享年66）などは、まさに突然死だったと思います。しかし、津川さんの場合は肺炎などの病気を長年繰り返し、年齢とともに徐々に身体が弱っていったところでの心機能の低下だったと思います。昨年10月に緊急入院されてから、日常生活にも酸素注入器が欠かせなかったという経過から「慢性心不全」だったのでしょうか。

心不全とは心臓がポンプ機能を失うことを意味します。死とは心臓が停止することです。だから死ぬ時は皆心不全になるとも言えますが2つの病態があります。津川さんは、亡くなるその日も病院で朝食を平らげました。最期までお肉なども食べ、その

夕方、ろうそくの火が消えるようにふっと逝った、とのこと。妻の朝丘さんも、亡くなるその日まで普通に自宅を過ごされて眠るように穏やかに逝かれたとのこと。つまり夫婦それぞれが、痛がらず、苦しまず見事な平穏死を遂げられた。しかもお別れ会と一緒に行うそうですね。一人娘の真由子さんはさぞ辛いこととは思いますが、死んでも尚、ここまで仲のいい夫婦はなかなかいません。

数多くの映画に出演された津川さんですが、私は伊丹十三監督作品への出演が印象的です。特に、終末期医療の在り方をわが国でいち早く描いた映画『大病人』（1993年）で、延命治療絶対主義の医師役を演じた津川さんは素晴らしい。映画の台詞で「死が怖い！」と叫んだ津川さんが25年後にこんな見事な逝き方をされるとは……。重厚な存在感を放った俳優がまた一人、いなくなってしまう。

ました。なんだか寂しい平成最後の夏が過ぎようとしています。